

研究 報告

ジャガイモ黒あし病の発生を防ぐための 工程管理

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 **ふじ 藤** **もと 本** **たけ 岳** **と 人**
本部企画戦略本部

はじめに

ばれいしょは我が国の基幹作物の一つであり、その生産量と作付面積はそれぞれ約 235 万トン、約 8 万 ha である。特に、北海道では国内生産量の 80% を占める約 173 万トンの生産を行う一大産地である。ばれいしょは親と同じ形質の次世代を収穫するために、茎の一部である塊茎を種いもとして植え付け、次代塊茎を収穫する栄養繁殖性作物である。そうすることで、親と同じ形質の次世代を得ることができるが、ウイルス病などの種苗伝染性病害のリスクが高くなる。そのため、種いも（種ばれいしょ）は健全無病であることが不可欠である。我が国では、原原種生産、原種生産、採種生産といくつもの

段階を経て、種ばれいしょを増殖させており、これらの生産現場では、健全性が担保された種ばれいしょ生産を行うために、植物防疫法などに基づく厳格な管理と検査が行われている。また、原原種生産では隔離温室内で栽培されたミニチューバーと呼ばれる塊茎を、1~2 年ほど圃場で増殖（基本ほ生産）させた塊茎を種いもとして使用している。ミニチューバーは立ち入り制限などの病害虫感染防止策を講じた温室で栽培されるため、栽培中に病原菌に汚染される可能性は極めて低い。

しかしながら、近年、北海道の種ばれいしょ生産圃場において、種いもを含む塊茎腐敗、株のしおれ、株元の黒変腐敗等を起こすジャガイモ黒あし病（以下、黒あし病と略記）が頻発し、種ばれいしょの生産量を低下させ

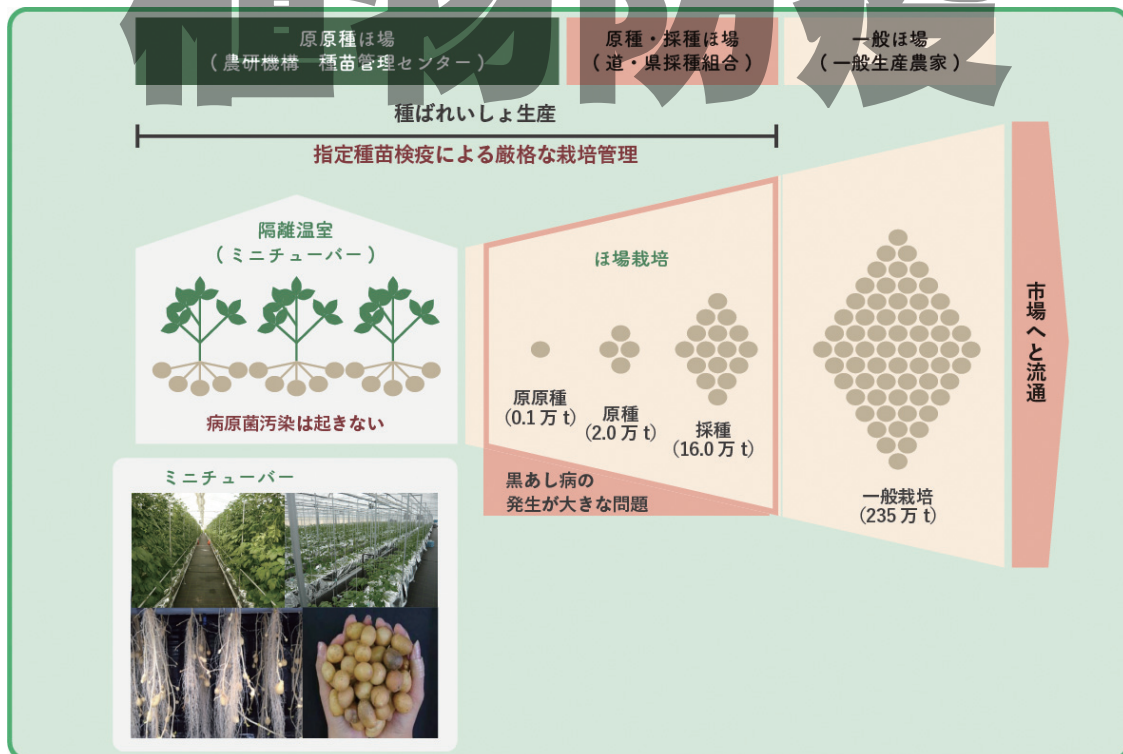


図-1 我が国のばれいしょ生産体系とジャガイモ黒あし病の発生

Management to Prevent the Occurrence of Potato Blackleg Disease. By Taketo FUJIMOTO

(キーワード：種いも伝染性病害、細菌、工程管理、栽培、貯蔵)